



遊びながら
コミュニケーションを
群馬大教育学部国語教育講座教授
中村 敦雄さん

PROFILE 国語の授業について幅広く研究し、国内外で活躍する。平成21年には「ぐんまの子どもにすすめたい本200選」の選定で座長も務めた。



1

読み聞かせってなぜいいの？

読み聞かせが親子にとって良いものだと聞いたことのある人が多いはず。でも「具体的にはどういった点が良いのだろう」と疑問に思ったこともあるのではないだろうか。そこで、読み聞かせの効果について、国語を研究する大学教授に話を聞きました。

心を潤す読み聞かせ

つい「読むこと」に注目してしまいがちな読み聞かせですが、大事なのは「聞かせること」。聞かせることを意識すると、子どもに親の声や愛情がしっかり届きます。親の声に自分が答え、自分が答えれば親が受け止めてくれるんだという実感を持ってます。親としても、読んでいて反応が返ってきたり、「読んで」と言われたりするとうれしいですよ。ね。そうして親子共に心が潤う、充実した時間を持つことが読み聞かせのすてきなところなんです。

さらに、言葉の発達にも影響があります。読み聞かせを受けて育った子は、たくさん言葉を使っているのと同じように、深く考える力の基礎にもなる

のです。

読書のきっかけに

読み聞かせは、本を自発的に読むきっかけづくりにもなります。本の楽しさが分かると読書が苦にならないので、自然と自分から読むようになります。ぜひ、積極的に取り入れてほしいと思います。

自由に読もう

読み聞かせをすることに、早すぎるということはありません。言葉が分からなくても、声や絵を読む楽しさは届いています。生まれたときからどんどん本に親しませてあげてください。

注意してほしいのは、読み聞かせを教育と考えること。字や言葉を覚えたり、集中して話を聞いたりといったことは、後から自然に身につくものです。読み聞かせは、親子で一緒に遊ぶ方を見つけるものなんだと考えると、もっと楽しくなりますよ。前のページに戻ってみたい、続きを勝手に作ったりしていいんです。一字一句を正確に読むのではなくて、本を通して会話をしている、コミュニケーションを取るという気持ちで、長く続けてほしいですね。

特集 パパ・ママ ご本読んで

読み聞かせで触れ合いタイム



親子の触れ合いとして、そして読書の入門として全国的に取り組みが広がっている読み聞かせ。今号では、その魅力に迫ります。

豊かな成長を願って

皆さんには、子どものお気に入りの本はありますか。ドキドキワクワクのストーリー、感動の物語、語り継がれてきた昔話など。多くの人が、お父さんやお母さんに本を読んでもらった記憶が残っているのではないのでしょうか。

子どもにとって「本が好きになる」ということは自主的な読書の下地づくりとして重要な要素であり、そのきっかけづくりの一つが読み聞かせです。本市では、子どもたちが本との出会いを広げ、心豊かに成長することを願い、子ども読書活動推進計画を策定。その一環として、読み聞かせ会などの取り組みを進めています。

今回の特集では、読み聞かせの大切さや読み聞かせが親子にもたらす影響を、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。



0歳からの読み聞かせブックスタート事業

本市では、赤ちゃんが本に親しむきっかけづくりとして、また、一緒に本を楽しむことで親子の触れ合いやきずなが深まることを願い、市内在住の0歳児に絵本を1冊プレゼントしています。こんには赤ちゃん事業の家庭訪問時に配布した絵本引き換え券と交換できます。

申し込み＝1歳の誕生月の前月末までにこども図書館へ直接

問い合わせは 市立図書館 ☎224-4311